

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年7月2日放送分・東七番丁／柳町通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 「東番丁に行く！」旅は、今回で7回目。寄り道しつつも、7回目でちょうど東七番丁まで来ました。仙台駅東口を出てすぐの南北の通りが、東七番丁です。北は旧X橋(宮城野橋)の東たもとから、南は荒町商店街(=奥州街道)に突き当たるまでの中～下級の侍たちが住む街区でした。
- 今月の辻標は「東七番丁／柳町通」です。実は、この東七番丁を割り出す前、周辺は湿地帯でした。「深田」と書かれている古い絵図もあるそうです。現在の青葉区中山辺りから柴木を大量に運んできて、埋め込みつつ、道なき道を割り出して行きました。柴木を埋め込んだから「柴田町」とも呼ばれたようです。それにしても、この辺りが湿地帯だったとは、妄想でも思い描くのは難しいですよ！深田に柴木を投入したから“柴田町”。あるいは湿気の多い土地という意味の「谷地小路」とも記録されている東七番丁なのです。



- 辻標のもう片面「柳町通」は、大日如来のある柳町に通じる通りという意味。奥州街道沿いにおいて茶の専売権で栄えた柳町、ひいては重臣達の住んだ片平までほぼ一直線に行ける重要な道が、この柳町通でした。また柳町通の東の端は孝勝寺まで通じており、別名・孝勝寺通とも呼ばれていました。孝勝寺には伊達家ゆかりの人物の墓が複数ある事から、仙台城からの墓参にも便利な道だったのではと木村さんは推測しています。
- その孝勝寺を街歩きの最後に訪問。平成に入ってできた五重塔が見ものです。また、その足元には昨年(令和5年)修復なった釈迦堂があります。これは四代藩主・伊達綱村が、母・三沢初子の菩提を弔うために建てたもの。綱村は榴岡近辺の大規模な整備を行なった人物で、こんにち桜の名所として知られる榴岡公園にサクラを植えたり、馬場を整備したりしました。釈迦堂も榴岡に建立されましたが、県図書館(現在のNPOプラザの敷地)が整備されたタイミングの昭和48年、現在の孝勝寺境内に移されたのでした。孝勝寺は仙台藩の歴史を知る上でも重要な寺です。ぜひ、訪ねてみて下さい。



〈文・佐々木淳吾〉